

通し番号	5038
------	------

分類番号	R02-9C-32-01
------	--------------

本県沿岸域におけるサバ類の漁況予測手法の確立
[要約] <ul style="list-style-type: none"><li>・東京湾～大島周辺の海洋環境が本県沿岸のマサバの好不漁に影響を及ぼしていることを明らかにした。</li><li>・伊豆東岸定置網のマサバ漁獲量、大島周辺の塩分、東京湾の水温の3つの要因から、その年のマサバ釣りの漁獲量を予測する手法を開発した。</li></ul>
神奈川県水産技術センター・栽培推進部 連絡先:046-882-2314

[背景・ねらい]

近年、マサバ太平洋系群の資源量は増加傾向にあるが、本県沿岸域におけるサバ類の漁獲量は減少している。本県沿岸域におけるサバ類の漁況は資源量の多寡に加えて、海況の影響を受けて変動すると考えられることから、海況変動を考慮した漁況予測手法について検討した。

[成果の内容・特徴]

1 マサバの北上期における本県来遊水準と海況要因の関係については、これまでの研究で、伊豆諸島北部～本県沿岸域の表層水温の分布状況を数値化した表層水温差指数と、マサバ太平洋系群の資源量と相模湾東部大型定置網4ヶ統の漁獲量との関係である来遊魚群量指数に一定の負の相関が見られることが判明している。そのため、過去の海洋観測データ（水温、塩分）とマサバ漁況水準の関係を詳細に比較検討した。

2 ①5月の伊豆東岸定置網のマサバ水揚量、②6月の伊豆大島北東海域の塩分データ、③8月の東京湾の表層水温データを説明変数とし、神奈川県沿岸海域におけるマサバかかり釣りのCPUEを目的変数とした重回帰分析を行うことにより、本県沿岸域におけるマサバかかり釣り漁の漁海況予測手法を開発した。

[成果の活用面・留意点]

- ・今回の研究成果にもとづき、平成29年度から毎年、水産技術センターホームページで「沿岸サバ漁況予報」を公表している。
- ・毎年データを積み上げて重回帰分析を行っているが、近年は来遊水準の低迷にともない出漁隻数が減少するなど操業形態が変化していることから、予測手法の改良が必要と考えられる。

[具体的データ]

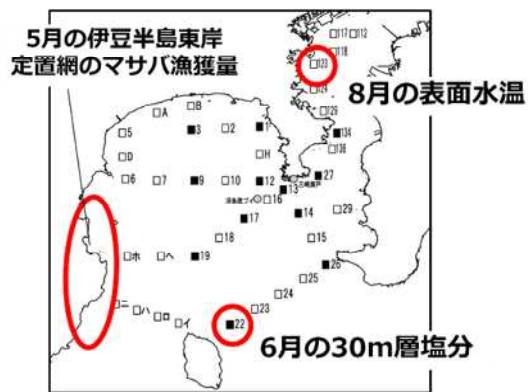


図1 漁獲量の予測に用いるデータ



図2 開発した手法を用いて予測した漁獲量

[資料名] 関東近海のさば漁業について「平成28年の調査および研究成果」、第49号、H28.12  
ブランド魚「松輪サバ」の漁獲量を予測する手法を開発、参考資料送付、H29.2  
黒潮の資源海洋研究、第18号、H29.3  
神奈川県沿岸域の一本釣り漁業におけるマサバの漁況予測手法、  
神奈川県水産技術センター研究報告第9号、H30.3

[研究課題名] 本県沿岸域におけるサバ類の漁況予報に関する研究

[研究期間] 平成28年度～令和2年度

[研究者担当名] 加藤充宏、武内啓明、中川拓朗